

お手元に使わなくなった 鍵盤ハーモニカはありますか？

商品名:ピアニカ、メロディオンなど

セブの子供に音楽教育を！日本の子どもに生きた英語教育を！

私たちはこれまで9年間フィリピン・セブ島支援をつづけてきています。最初はスクワターと呼ばれる不法居住地に暮らしている貧しい人達に、日本から古着やビタミン剤を持参し、現地で購入した食料と一緒に配ることから始めました。

また、諏訪湖ロータリークラブの自己資金と国際ロータリー財団の資金の活用により、水不足に悩む貧村に16基の井戸を設置しました。



寄贈した井戸をセブの人たちと喜び合いました

しかし、このような支援は貧しい住民の暮らしの一助にはなっても、決して彼らの自立にはつながらないことに気づき、このような人道支援と平行して、子どもたちが通う公立小学校に対する支援も始めました。最初は学校側が希望した、教室のいすや下駄箱を提供することから始めましたが、4年前校舎の塗装事業資金を要望された時、「塗装に必要なペンキその他用具の購入資金は提供するが、塗装は業者に依頼せず、先生、生徒そして父兄でやって欲しい」と申し入れました。それは、生徒たちが先生や父兄と一緒に汗を流して行うペンキ塗り作業が、自分たちの学校を愛する気持や仲間意識を生んでくれるだろうと期待したからです。3年前の6月再訪した時、新学期の始まったマクタン小学校は見事に化粧直しが終わっていました。期末の学校休暇の4、5月に、生徒たちが、先生や父兄と一緒に校舎のペンキ塗りをやり遂げたのです。『本当に君達が、こん

なにきれいに塗ったの?』という私たちの問いに、生徒たちは一斉に『そうだよ!』と誇らしげに答え、先生は作業時の写真を見せてくれました。そこには、顔にペンキがたれたままで、モップで教室の天井を塗っている先生と、笑顔で壁を拭いている生徒が写っていました。

この訪問時、私たちは諏訪市の城北小学校から戴いた鍵盤ハーモニカを持参していました。校内視察の終わったあと、校長室でこれを先生方に見せて『この楽器を知っているか?』と聞いたところ、校長先生を始めみんな、知らないと答えました。会員の一人が演奏して見せて、『この楽器を使って、音楽教育をやってみませんか?』と先生たちに聞きました。

この学校にはピアノはおろかオルガンもありません。音楽の授業も無いのです。私たちはこの学校の子供達に、この楽器を使って音楽を学んで欲しいと考えたのです。校長先生は、しばらく考えた後、承知してくれました。



熱心な練習風景



ペンキ塗りの様子

帰国後、私たちの鍵盤ハーモニカ集めが始まりました。下諏訪中学校にもお願して、中学生になって使わなくなって家に眠っている鍵盤ハーモニ

カを寄付してもらいました。こうして集まった61台の鍵盤ハーモニカを持って、2011年12月にマクタン小学校を再訪しました。鍵盤ハーモニカ収集に協力してく

ださった下諏訪中学の林先生とご家族の3人が同行してくれました。

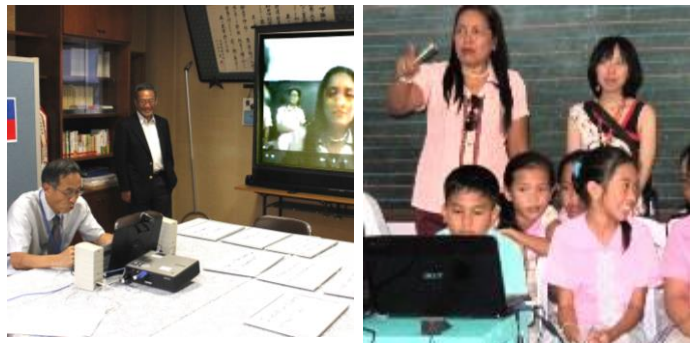
林先生が中心になって、マクタン小学校のクラス担任教師と校長先生に鍵盤ハーモニカの指導をし、続いて4年生と5年生のクラスにも、クラス担任の先生と一緒に演奏指導をしました。その時、校長先生から「この学校には2800人の生徒がいるので、全校生徒に学習させるには300台欲しい」とお願いされました。帰国後、諏訪地区の小中学校、地域の方々、諏訪信用金庫、信学会などにお願ひし、収集を続けました。

2012年2月に、マクタン小学校のナネ先生から、クリスマスパーティで生徒たちがクリスマスソングを演奏したこと、そしてPTA総会の時は、父兄の前でフィリピン国歌を演奏した、というメールが送られてきました。



本年2月訪問の時に国歌斉唱で歓迎してくれました

この熱意に励まされて、私たちは鍵盤ハーモニカ収集を続け、2012年の4月には450台の鍵盤ハーモニカを収集することが出来ました。その年の6月マクタン小学校に、約束の300台の鍵盤ハーモニカを贈呈しました。この時、マクタン小学校の学童と下諏訪中学校の生徒との間で、インターネットのスカイプを使い英語の会話とチャット(文字通信)が行われました。



初めてのスカイプでの両校長の表敬と、会話を交わしたセブの子供たち

現在、鍵盤ハーモニカによる音楽教育を始めた現地の小学校は5校に増えました。インターネットによる英会話交流も順調に続けられています。今後このような英会話交流が下諏訪中学だけでなく、諏訪全域の学校で行なわれるようになれば、素晴らしい日比親善となるでしょう。

こうした、クラブ単位の国際的な奉仕のほか、今、世界には120万人以上のロータリアンがいて、いろいろな世界社会奉仕事業に参加しています。例えば私たちのクラブでも、メンバーが7年前から国際ロータリーの医療奉仕団に参加して南米やアフリカの恵まれない人達の医療奉仕を続けています。

また、WHOと国際ロータリーが協力して取り組んでいる、世界的に有名なポリオ(脊髄性小児麻痺)をなくすための奉仕活動「ポリオプラス」により、世界からポリオがなくなる日をまもなく迎ようとしています。



国際ロータリー医療奉仕団

不用になった鍵盤ハーモニカを寄付いただける方は、お近くのロータリーメンバー、または諏訪湖ロータリー事務局までご連絡ください。

また学校の事務室にお届けいただいても結構です

諏訪湖ロータリー事務局 立町(ぎん月内)

TEL0266-26-4006 FAX26-4007

チェンジメーカー賞受賞

平成24年6月、諏訪湖ロータリークラブは、社会奉仕活動、国際奉仕活動などに取り組む姿勢や成果が高く評価され、国際ロータリークラブよりチェンジメーカー賞・ゾーン賞を受賞いたしました。

第2ゾーンという広い地域で受賞できるのは1クラブだけであり、第2ゾーンの中で、もっとも優秀な中規模クラブと認められました。



※国際ロータリー日本地区の第2ゾーンエリアは、上記の地区(沖縄含む)に加えてグアム、ミクロネシア、北マリアナ、パラオを加えた659クラブ、会員数30,944人のエリアをさします